Be-News

2014.Spring

真理はわれらを自由にする

Be-News 2014.Spring（別府大学通信　No.108）
編　集　別府大学メディア教育・研究センター　広報部
発行日　平成26年3月10日
印　刷　佐伯印刷株式会社

［特集］

別大GP―意欲的な学生支援と研究活動を支援―…1

contents

●おめでとうございます（学生・教職員の表彰）…2
●教育CloseUp
マンガ・アニメーションコースで培う創作の力と勇気…3
初等教育科（小幼コース）と専攻科初等教育専攻の教員養成教育…4
●研究者インタビュー
牧　貴愛（教職課程　講師）……5
池口　功晃（地域総合科学科　講師）……6
●世界と結ぶ（国際交流）……7
●地域とともに歩む（地域連携）……8
●いきいき別大生・明豊生……9
●がんばってます留学生……10
●学園を支えていただいた方々……11
●後輩への言葉……12
●学園News……13-16
●教職員コラム……17
●学園関係の新聞掲載記事……18

李　英「生命の力」130.3×162㎝ キャンバス・油彩

特集　別大ＧＰ－意欲的な学生支援と研究活動を支援－

1.「別大GP」とは?

学校法人別府大学では、大学・短大の学部・学科、研究所、教員グループ、教員個人などが実施する教育・研究の取組の中から、とくに優れたものを公募で選び、特別支援を行っています。本学では、この事業を「別大GP(Good Practice)」と呼んでいます。(正式名は別府大学特別強化事業費助成金)

別大GPの「公募・選定・支援」というスキームによって、意欲のある教員が、年齢や職位に関係なく、積極的に教育改革や研究に取り組めるようになりました。また、学内に競争的環境を設けることによって、教員同士が互いに切磋琢磨することが期待されています。

別府大学GPは、平成23年度スタートの「学生支援GP」と平成24年度スタートの「研究支援GP」の二つの事業で構成されています。平成25年度は、学生支援GPは17件、研究支援GPは10件が採択され、次のような取組を活発に展開しています。

2.「学生支援（教育)GP」の事業例

〈事業例1〉学生料理コンテスト「学食メニューを考えてみよう」

外食で食事を済ませることが多い学生に食への関心を高めてもらおうと企画。15組30名の応募があり、学生自らが栄養バランスに配慮した学食のモデルメニューを考案し調理しました。入賞作品は学内食堂で限定販売し、大変好評を得ました。(事業代表：大学・食物栄養学科・平川史子准教授)

〈事業例2〉保育学生の自主性及びコミュニケーション力向上支援

学生の自主性やコミュニケーション力など社会的スキルを高めることを目的に、①「わんぱく子どもまつり」と②「パパ育児応援講座」を実施しました。(事業代表：短大・保育科・相浦雅子教授)

〈事業例3〉学生の実践的な力を養う地域産業や高校との連携事業等

地域産業や地域課題に対する学生の理解を深め、課題解決に向けて行動する力を養うため、①企業や自治体を訪問する現地授業、伝統的稲作体験・生態保全活動、県農林水産祭への参加、②高校生セミナーや高校出前授業などを行いました。(事業代表：大学・国際経営学科・関谷忠教授)

〈事業例4〉学生による過疎地高齢者のロコモティブシンドローム予防の指導

竹田市と豊後高田市の高齢化率30%を超える地区の高齢者を対象に、学生自らが体操指導（ロコモティブシンドローム予防教室）を企画・実施しました。(事業代表：大学・食物栄養学科・吉村良孝准教授)

〈事業例5〉「学習意欲向上のための地域食育活動プログラム」

栄養士としての知識や技術を習得し、現場で多種の対応ができる能力を養うため、地域と協力し、学生主体の食育活動を企画・実践しました。この活動の成果が認められ、平成25年度の公衆衛生奨励賞を受賞しました。(事業代表：短大・食物栄養科・立松洋子教授)

〈事業例6〉「豊かな人間性と実践力をはぐくむ課外活動の充実」

初等教育科が課外で実践する研究室活動と日常のクラスが連携し、学生自身の企画・運営によって、子どもたちが楽しめる「わくわくフェスティバル」を実施しました。(事業代表：短大・初等教育科・佐藤慶子教授)

3.「研究支援GP」の研究例

〈研究例1〉大学体育授業が「学士力関連スキル」に及ぼす影響と持続効果の検証

本研究は、大学の体育授業で獲得された「学士力関連スキル（チームワーク・問題解決力・リーダーシップ・コミュニケーション)」と「運動行動」の持続効果を明らかにすることを目的にしています。調査の結果、「運動の恩恵、チームワーク、リーダーシップ」に関して2年後の持続効果が確認されました。(研究代表：短大・初等教育科・中山正剛講師)

〈研究例2〉高次脳機能障害者の地域生活を支えるソーシャルワーク実践モデルの構築

本研究は、高次脳機能障害のある人を地域で支える実践の体系化を目的にしています。本人へのヒアリング調査から、社会生活上で起こる生活のしづらさとその構造が明らかになりました。(研究代表：大学・人間関係学科・林眞帆教授)

〈研究例3〉語学教育におけるプレイスメントテストの効果的活用と教育効果の測定

本研究は、日本語と英語のプレイスメントテストを、クラス編成だけでなく、教育効果の測定にも利用することを目的にしています。調査の結果、日本語で伸び悩む学生は中位クラスに多いこと、英語では後期の成績が伸びないことから、学生の学習意欲を維持する取組が必要であることなどがわかりました。(研究代表：日本語教育研究センター・松田美香センター長)

〈研究例4〉未利用バイオマス資源の高付加価値化に向けた低分子化リグニン分解微生物の分離と機能解析」

生分解性プラスチックや、薬剤の材料としての応用が期待されてい低分子化リグニンの研究を行います。現在はリグニンから分解菌を分離し、様々な化合物の分解実験を行い素材として有用な化合物の探索を行っています。(研究代表：発酵食品学科・藤原秀彦准教授)

4. 別大GPの成果の発表・共有

別大GPによる学生支援（教育）と研究の成果を、学内で広く共有するため、毎年5月に成果発表会を開催しています。成果発表会は、FD研修の場としても位置付けられ、活発な討議が繰り広げられています。

おめでとうございます（学生・教職員の表彰）

金子進之助別府大学短期大学部学長が大分合同新聞社文化賞を受賞しました

2013年11月３日、金子進之助別府大学短期大学部学長が「大分合同新聞文化賞」を受賞されました。金子学長は、長らく大分県の福祉行政に携わられた後、1989年に本学短期大学部教授に就任、以来今日に至るまで保育士養成教育に尽力されてきました。また、2003年には「大分被害者支援センター」を設立し、20余年にわたり理事長として犯罪被害者の支援活動を主導してこられました。今回の受賞は、このような社会福祉分野のご業績が高く評価されました。

昨年12月26日、金子学長の受賞をお祝いする会が、大分市のトキハ会館において盛大に催され、本学園関係者や学長ゆかりの方々およそ150名が集い、この度のご受賞をお祝いしました。

歓談する学長ご夫妻（左）
受賞祝賀会の様子（下）

井手口謙二学生課課長が九州地区大学野球連盟功労者表彰を受けました

2013年10月７日、本学事務部の井手口謙二学生課課長が九州地区大学野球連盟から「功労者表彰」を受けました。井手口課長は、1978年に本学に着任してより、学生課・教務課・管理課で勤務するかたわら、野球部の助監督・監督として本学野球部の育成・強化に努めてこられました。そのような努力が実り、野球部は2007年には全日本大学野球選手権大会（明治神宮大会）に出場し、九州地区大学野球選手権では３度の優勝を果たすなど、赫々たる成績を挙げてきました。また、忙しい勤務の合間をぬって九州各地を巡り、優秀な選手の発掘にも力を注いでこられました。このような長年にわたる大学野球に関する尽力が高く評価され、この度の表彰となりました。

表彰状を持つ井手口課長

女子剣道部が九州大会で優勝し、学長表彰を受けました

2013年12月15日、本学女子剣道部が「第63回九州地区大学体育大会」（長崎県総合体育館）で見事優勝しました。本大会での本学の優勝は21年振り、３回目です。

今回優勝したチームは、今年着任された岩本貴光監督（短大初等教育科講師）の下に編成された新チームで、メンバーは吉田汐里（食物栄養学科3年)、内野沙紀（食物栄養学科３年)、松永理花（食物栄養学科3年)、小森あかね（人間関係学科２年)、坂本雅代（人間関係学科２年)、笠谷幸美（国際言語・文化学科２年)、市川美穂（食物栄養学科１年)、前坂美貴子（国際言語・文化学科１年）の皆さんです。今回の優勝に対し、2014年１月23日、豊田寛三別府大学長から表彰が行われました。

大会後の記念撮影

食物栄養学科の学生が「S-1g大会」で受賞し、学長表彰を受けました

2014年１月23日、国立循環器病研究センターの主催する「ご当地かるしおレシピ」プロジェクト「S-1g（エス・ワン・グランプリ）大会において、食物栄養科学部食物栄養学科3年の辻夏姫さんと宮原由美さんが応募した「中津減塩唐揚げ」が、総菜部門で「だし・うま味賞」を見事受賞しました。

本学チームは一次選考で応募作品355点中の24作品に選ばれ、本選に進み、今回の受賞となりました。受賞した作品は、冠地鶏、大分乾椎茸、カボス、日田梨等の大分県産食材を使い、減塩でうま味の効いた一品に仕上がっているとのことです。今回の受賞に対し、2014年１月31日、豊田寛三別府大学長から表彰が行われました。

受賞レシピ（上）と
表彰式の様子（下）

教育 CloseUp 1

マンガ・アニメーションコースで培う創作の力と勇気

国際言語・文化学科の中にあって

マンガ・アニメーションコースは、美学美術史学科から名称変更された芸術文化学科の中に2004年に設置され、10年を迎えます。現在は、国文学科、英文学科と統合された国際言語・文化学科の中にあるわけですが、広い文化的知識と教養が必要とされるマンガ・アニメ創作にとっては、とても良い環境と言えます。中学・高校の美術の教員免許、学芸員資格、司書資格も取得可能ですしね。

マンガ・アニメの創作に求められるさまざまな能力

マンガもアニメーションも、見て読んで楽しむことは容易にできますが、いざ創るとなるとこれは大変。多様な能力が必要になります。絵が上手なだけではマンガは描けません。ストーリーを考えるには、豊富な知識が要ります。そのためには取材もしなければなりませんし、取材で得た情報を整理する力が必要です。対象となる読者層を考慮した企画力も問われます。その上でドラマの核を考える発想力、展開を工夫してエピソードを紡ぐ構成力、台本（マンガでは文字コンテと呼びます）を起こす演出力、さらには自分が創ったキャラクターを生き生きと動かす演技力……。加えてマンガ・アニメの制作には、時間と労力を惜しみなく注がなければ完成に至りません。そのための体力と気力（根性）。このすべてを兼ね備えて初めて、マンガ家やアニメ作家と呼ばれる存在になるわけです。もうおわかりでしょうか…マンガやアニメを創れるということは、どんな仕事だってできるんだぞ！ということなのです。

2013 年は石垣祭にコース参加

大学でマンガ・アニメを学ぶ意義

マンガ・アニメーションコースでは、総合的な創作能力を高めるカリキュラムを多面的に整えてきました。取材メモやキーワードをブレーンストーミング的にシャッフルしながらのアイデア発想、登場人物の行動を時系列表で整理しながらのストーリー構成、日本語ならではのオノマトペを活かした演出……もちろん、遠近法の理解や質感の表現といった基本的な描画力もないがしろにしてはいません。さらにデジタル処理能力、デジタルソフトでの制作、具体的に言うとPhotoshop、Illustrator、Flashなどを使いこなすスキルも必修課題です。こうした創る能力を高め、世の中のどんなプロジェクトに入っても《役割》を果たせる人材を育成したいと考えています。

書画カメラとホワイトボードを使った授業

それでも夢は追いたいですよね

マンガ家養成がコースの目的ではありませんが、プロマンガ家へのステップを踏んでいる卒業生もいます。小学館「少年サンデー」編集部が主催する学生のマンガコンクール「クラサン杯（カップ）」では、コース卒業生が３年連続の受賞を果たしています。2011年／藤田幸恵さん（激励賞）、2012年／藤本一茂君（全国第１位）、2013年／久保田由佳さん（激励賞）。また、昨年は深堀優紀さん（ペンネーム：フカホリユウキ、2010年3月卒）が、「第71回小学館・新人コミック大賞」児童部門入選を経て、『別冊コロコロコミックSpecial』10月号において、マンガ雑誌デビューを果たしました。

組織の中に埋没しない人間たれ

創作で一番大事なことは一人でやりきる勇気を持つことです。真っ白い紙、真っ白い画面に正面から立ち向かって、何かを創りだす勇気。クリエイターにはこの凛とした姿勢が求められます。マンガ・アニメのオリジナル作品を創る孤独な作業の中で培われる、こうした《心の力》が、世の中で役割を持ちながら、しかも個性の光を放ってくれると確信しています。

４年間の集大成　卒業制作展

教育 CloseUp 2

初等教育科（小幼コース）と専攻科初等教育専攻の教員養成教育

初等教育科小幼コースと専攻科初等教育専攻では、それぞれ小学校二種免許状と小学校一種免許状が取得できます。近年、小学校教員免許を取得した卒業生・修了生が採用試験で大きな成果を挙げています。

初等教育科小幼コース

初等教育科小幼コースでは小学校二種免許状と幼稚園二種免許状が取得できます。25名程度の少人数クラスの良さを生かし、ディスカッションや模擬授業といった実践的な授業スタイルを多く取り入れているため、小学校教員に必要な知識・技術をしっかりと身につけることができます。卒業後は約半数の学生が小学校や幼稚園などの教育現場で活躍し、もう半数の学生は専攻科初等教育専攻に進学しています。

電子黒板を使った少人数演習授業の様子

専攻科初等教育専攻

専攻科初等教育専攻では、短大卒業後にさらに2年間の学修を積み重ねることで専門性をさらに高め、小学校一種免許状と幼稚園一種免許状を取得できます。定員10名という徹底した少人数教育環境を生かして、ディスカッションや発表、模擬授業といった授業スタイルを全ての授業で取り入れています。その中で教育現場での具体的な課題について、自分の言葉で分析し議論することを通して、教育現場において理論と現実を結びつける実践的思考力を身につけることができます。

専攻科初等教育専攻では実践力のある教員の育成に特に力を注いでいますが、そのことが最もよく現れている取り組みが、2年生後期に実施される「教育マイスター研修」です。この教育マイスター研修では、学生がすでに小二種免を取得済の有資格者であるという初等教育専攻の特長を生かし、別府市内の小学校で3ヶ月間にわたる長期研修を行います。実習生としてではなく、研修生としてベテラン教員に師事し授業やクラス運営に参加することで、教師としての心構えや使命感、やりがい等を伝授してもらいます。このマイスター研修を通して、初等教育専攻の学生は教師になるための大きな自信と強い信念を持つことができます。

初等教育専攻の修了生は9割以上が小学校現場で先生として活躍しています。

別府市内小学校での授業風景（教育マイスター研修）

小学校教採1次試験に7割の合格者

初等教育専攻・初等教育科小幼コースでは教員採用試験への対策にも取り組んでいます。大学全体で取り組んでいる教員採用試験対策講座に加えて、小学校採用試験の模擬試験や、教科や分野を絞った学習会を少人数で実施しています。また、大分県教員採用試験に合わせた模擬授業や口頭試問、実技試験（ピアノ・マット運動・水泳）についての対策講習会にも取り組んでいます。

初等教育専攻では、教職の専門的知識を問う教員採用試験1次試験に約7割の学生が合格します。

小学校教員採用試験で現役合格

初等教育専攻や小幼コース在学中に小学校教員採用試験に合格する学生は残念ながら多くありません。しかし、多くの修了生・卒業生は臨時講師として小学校で先生として活躍しながら、採用試験合格を目指しています。表 1は平成22年度以降に修了生・卒業生が小学校教員採用試験に合格した人数を示したものです。近年、合格者数が増加しているのがわかります。特に大分県内で活躍している先輩が成果を出していることで、在学生は大きな刺激を受けています。今年度は初等教育専攻2年生が現役で採用試験に合格しました。このような良い刺激の連鎖を維持し、さらに次の成果につなげていきます。

表 1　小学校教員合格者数（H22 以降）

年度	人数	都道府県（カッコ内は人数）
H26	6	大分（5）, 東京
H25	5	大分（1）, 熊本 , 宮崎 , 福岡 , 北海道
H24	6	大分（2）, 福岡 , 沖縄 , 熊本
H23	3	大分（3）
H22	0	－

vol.17 牧（まき） 貴愛（たかよし）

別府大学文学部（教職課程）専任講師

タイに魅せられて…笑顔が絶えない優しいタイ人、美味しいタイ飯、暖かい気候など研究しだしたらやめられない、とまらない、まるで「かっぱえびせん」と、はまり込んだら止まらない一途な先生です。

学生と教員が対等に意見を交わし合い学びを深める、そんな授業をめざしています。

ー今の分野へ進むきっかけは何ですか。

学部２年生の頃、単身で２ヶ月間、タイ東北部の中等教育学校に日本語教育ボランティアとしての活動経験。その時に抱いた「なぜ、タイの子供達は学校をとても楽しんでいるのだろうか」という疑問が直接のきっかけです。

加えて、タイは「かっぱえびせん」のような魅力があります。笑顔が絶えない優しいタイ人、美味しいタイ飯、暖かい気候などなど「やめられない、とまらない」ということで今に至っています。（笑）

ー大学はどちらに、大学ではどんな勉強をしていましたか。卒業後大学院に進学されてからの研究テーマについて教えて下さい。

学部、大学院の修士課程、博士課程、それぞれ異なる大学で学んでいます。学部はASEANの研究をされている国際関係論の先生の研究室に所属し、1950年代末～ 60年代のタイの開発政策による伝統的な子育て文化の変容といった事柄について調べて、卒論を書きました。大学院修士課程はチュラーロンコーン大学教育学部に交換留学生として約１年間滞在していましたので３年かかりました。その時、比較教育学を専門とされている先生の下で学んだことで、教育学への関心が強くなりました。大学院博士課程は広島大学大学院教育学研究科に進学。運良く研究助成金を得て、タイ教育省教育審議会事務局（日本の国立教育政策研究所に相当）に研究員として約８カ月滞在しました。比較国際教育学研究室に所属し「タイ初等中等教員の質的向上施策に関する研究」で学位を取得。大学を転々としていますが、一貫して、タイを追いかけています。

ー教育には昔から興味があったのですか。

「なぜ学校に通わなければならないのか」、「なぜ勉強しなければならないのか」と疑問を持ち始めた中学２年生くらいの頃から漠然とあったのだと思います。教育学を看板に掲げるようになったきっかけは、比較的最近になってからのことです。

ー普段授業で心がけていることは、そのための工夫は。

一人の人間として学生と対峙することです。そのための工夫は、教師を演じない、学生とともに学ぶ、という心がけ。教師を演じず、素で臨んでいますので、特別な工夫は一切していません。比較的少人数の講義や演習では、取り上げる素材を媒介として、学生と教員が対等に意見を交わし合い学びを深める、そんな授業をめざしています。

ー本学について感じることは

別府大学の良さは、これまで学んだり、勤務したりしてきた大学に比べて、学生と教職員の距離感が近く、どことなくアジアのような、タイのような感覚で過ごすことができるところだと思います。（笑）

ー学生へのメッセージ・アドバイスなど

難しいと感じる事柄に対して、寸時を惜しんで倦まず弛まず、納得がいくまで取り組んでもらいたいと思っています。それは、難しさにこそ、楽しさ、面白さの源泉があるからです。

ー今後の夢は

博士論文としてとりまとめた研究成果を『タイの教師教育改革―現職者のエンパワメント―』（広島大学出版会、2012年）として出版しました。続編として、目下取り組んでいるタイの「教職高度化」をめざした教師教育改革に関する研究の成果をとりまとめて出版すること。そして、前著と併せてタイ語または英語に翻訳・出版して、研究成果をタイにフィードバックすることです。

2013 年５月、タイのカセサート大学での聞き取り調査（左は教育学部長）

牧　貴愛 先生　プロフィール

出身：熊本県
所属：文学部（教職課程）専任講師
専門分野：比較教育学、教師教育、タイ地域研究
学歴・職歴：熊本県立大学総合管理学部総合管理学科卒業。名古屋大学大学院国際開発研究科国際開発専攻博士（前期）課程修了。修士（学術）。タイ王国チュラーロンコーン大学教育学部留学。タイ教育省教育審議会事務局訪問研究員。広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻博士課程後期修了。博士（教育学）。熊本大学大学院社会文化科学研究科研究員、広島大学大学院教育学専攻教育学講座助教を経て本学に着任。
趣味：タイに関することであれば何でも。
幼少期に取り組んだこと：小学校の頃は、理科と図画工作が大好きで、発明工夫展に発明品をつくって応募したり、水彩画を描いたり、工作をしたり、といったことが大好きでした。

vol.18 池口（いけぐち） 功晃（たかあき）

別府大学短期大学部地域総合科学科　講師

意外や意外！海の男、ヨットマン、今も福岡の海でウィンドサーフィンを楽しんでいるスポーツマン。大学在学中には日商簿記１級取得。現在は５年以上続けているフランス語の勉強と頑張り屋さん先生です。

15回の授業は各先生方が熟慮を重ねて実施されています。休まずに受けてみて、将来必ず役に立つ時が来ます。

ー先生のご専門は？

観光地理学・観光経済学を専門としています。

ー今の分野へ進むきっかけは何ですか？

欧米では観光学の研究が1960年代より盛んに行われていますが、日本はこの分野の研究が随分遅れています。ある書物に観光に関するデータがあり、日本人の海外出国者数は年間1800万人にも及ぶのに対し、入国者数は500万人程度であると知ったことが最初のきっかけです。この出入国のギャップは先進諸国においては極めて特異で、何故なのかと純粋に疑問が湧きましたね。そこで、働きながら通える大学院で、かつ観光地理学の指導教官が充実している久留米大学大学院比較文化研究科に進学しました。

ー大学はどちらで、どんな勉強をしていましたか？

慶應義塾大学在学中は、公認会計士を目指し、いわゆるダブルスクール族でした。在学中に日商簿記1級を取得するなど会計学に関しては一通り勉強しましたね。まあ、ときどき、友人たちと一緒に飲み会やったり、サークル活動（テニス）にはまってしまった時期もありましたが。また、３、４年次にはゼミ代表を務め、いろいろなことを経験しました。特にゼミOB会は準備など大変でしたが、各界のいろいろな方とお会いする機会があり、貴重な経験をさせていただきました。

ー卒業後は大学院に進学されましたが、研究テーマは？

観光による地域経済活性化をテーマとして取り組んでいます。特に最近は市町村レベルの産業連関表を作成し、観光がもたらす経済効果を精緻に分析しています。竹田市の産業連関表を作成したのは私が初めてではないかと密かに自負しています（笑）。

ー学科の良さは？学科の特徴を教えてください。

地域総合科学科はいろいろな科目を勉強できる点が最大の特徴だと思います。ビジネス・福祉・観光の3分野から横断的に授業を選択することができ、意欲があればいろいろなことを学ぶことができます。あと、少人数なので、先生と学生の距離も近いことが魅力ではないでしょうか。

ー普段、授業で心がけていることは、そのための工夫は

Eメールの発達によって、最近の学生は、良くも悪くも人の話を聞くことより、文字を読むことに慣れている気がします。そこで、普段の授業では大事なポイントを中心に、ほぼ毎回レジュメを作って授業に臨んでいます。これは別府大学に着任してずっと続けています。やはり、準備がきちんとできて授業する場合とそうでない場合とでは、学生の反応が全然違うんですね（笑）。わずか90分の授業ですが、「今回はこれを理解してほしい、これができるようになってほしい」と思いながら授業を実施しています。

ー学生へのメッセージ・アドバイスなど

普段、学生の皆さんが受けている授業は、皆さんが思っている以上にそれぞれの先生方が熟慮されて実施されています。是非、各期15回休まずに受けてみてください。何か得られるものが必ずあるし、いま役に立たないと思えても、きっと将来、役に立つ時がくると思います。私自身、最近は暇さえあれば、なぜか日本の近代史の本ばかり読んでいます（笑）。

ー今後の夢は

観光研究を続けて海外の学会で研究発表をすることです。そのために英語・フランス語の勉強も続けています。フランス語は週に１回、フランス人の先生に習っています。もう５年以上、「家庭教師」をしてもらっています（笑）。

ー就職に関して

あまり知られていないかもしれませんが、地域総合科学科の就職率はかなり高いんですよ。銀行等の金融業界に毎年、内定者を出していますし、福祉、観光業界にも多くの学生が就職しています。

天ヶ瀬町での調査の一齣

池口 功晃 先生　プロフィール

現職：別府大学短期大学部地域総合科学科講師
専門分野：観光地理学　観光経済学
学歴：慶應義塾大学商学部商学科、久留米大学大学院前期・後期博士課程修了
学位：修士（学術）
職歴：会計事務所勤務後、大学等非常勤講師を経て本学に着任。
趣味ほか：高校時代はヨット部に所属。「空気」ならぬ「風」を読むのを得意としている（笑）。今でも夏には時々、福岡の海で友人とウインドサーフィンをして過ごす。また、語学と旅行が趣味で、台湾を１人で一周した経験もある。最近は、健康のため、酸っぱい食べ物を中心に食生活の改善に取り組んでいる。

世界と結ぶ（国際交流）

韓国の水原大学校、水原科学大学校等と交流協定締結

2013年11月18日、学校法人別府大学と別府大学、別府大学短期大学部は、韓国の水原大学校、水原科学大学校（学校法人皐雲学園）と交流協定を締結しました。両校はソウルの南、京畿道華城市に所在する私立大学です。水原大学校は人文・法政・経営・生活科学・自然科学・工学・体育・芸術・音楽・IT等分野の10学部をもつ総合大学で、12,000人の学生を擁しています。また、水原科学大学校は本来短大ですが、４年制の学科も有し、建築・情報・歯科・看護・福祉・経営・航空・観光・幼児教育・調理等分野に関する31学科をもち、7,000人の学生が学んでいます。

協定の締結は、本学園の日高紘一郎理事長、豊田寛三大学長、友永植文学部長、孫在奉短大教授が両校を訪問し、水原大学校の李仁洙総長水原科学大学校の朴哲秀総長との間で行われました。今後は学生による短期研修や留学、あるいは遠隔授業などを通して、相互交流を進めることにしています。

また、昨年（2013年）11月29日にソウルの登村高校、今年（2014年）１月14日に義城の義城高校とも交流協定書および指定校覚書を交わし、今後、同校からの学生を受け入れることにしました。

協定書を交わす日高理事長（右）と李総長（左）

協定書を交わす豊田学長（右）と朴総長（左）

中国の上海外大賢達経済人文学院と交流協定締結

別府大学は中国の上海外国語大学賢達経済人文学院と包括的な交流協定を締結し、2013年11月26日に協定書を交わしました。当学院は上海に所在し、中国の重点大学の一つ上海外国語大学と民間企業の「賢達投資」が出資し、2004年に設立した私立短期大学です。現在、上海・崇明の2キャンパスに学生6,000名が学んでいます。教学組織としては、外国語学（英・仏・独・西・韓・日）・商学（国際貿易・マーケティング・会計）・文化産業管理（メディア）・法学・教育学（初等教育）・国際教育等11学院の下に21専攻を擁しています。教員には、上海外大の退職者や現役教員が多く勤めています。

当学院は、教育の特色の一つとして国際化教育を推進し、アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・スペイン・日本・韓国等10ヶ国の22大学と交流協定を結んでいます。今後は学生による短期研修や留学などを視野に入れ、具体的な交流について協議することにしています。

上海キャンパス

協定書を交わす友永植文学部長と李振洋外事處處長

中国・韓国大学関係者の本学来訪

本年度（2013年度）後半も多くの中国・韓国の大学関係者が本学を訪れました。中国からは、昨年（2013年）11月１日に武漢城市職業技術学院文化創意芸術設計学院の陳志勤学部長ほか４名が、マンガ・アニメコース（国際言語・文化学科）の視察のため来学しました。当学院は武漢市に所在する短大で、学校として110年の歴史を誇っています。現在、７学部57専門に17,000人の学生が学んでいるとのことです。また、11月５日には上海新僑職業技術学院の朱莉莉副院長ほか４名が来学しました。当学院は、上海市に所在する短大で、卒業生が多く本学に編入学しています。今回、学院一行と当学院卒業生の懇談会が開かれました。

韓国からは、昨年11月19日に扶餘郡教育支援庁の李乙鏞教育長ほか６名が来学しました。扶餘郡は福岡県宇美町と交流があり、宇美町に勤務する本学卒業生の紹介で本学を訪れました。本学では韓国からの留学生と懇談し、本学の大分香りの博物館を見学しました。また、12月20日には大邱科学大学校の教員と学生19名が来学しました。当校は大邱市にある大学で、本学とは2005年に交流協定を締結し、相互に親しく交流を行っています。今回は、当校が実施する「TSUキャンプ」（2014年１月）に参加予定の人間関係学科の学生10名と交流しました。

写真は本学学生と大邱科学大学校生の交流の様子

「第42回別府大学国際セミナー 2014冬季」を開催

2014年１月29日から２月15日までの３週間（一部２週間）、本年度の冬季国際セミナーを開催しました。今回は、韓国の大邱科学大学校、国立順天大学校、威德大学校、仁済大学校、龍仁大学校、新安山大学校、慶熙サイバー大学校、台湾の崑山科技大学の８つの大学から84名の学生が参加しました。セミナーでは、午前中に日本語の授業を受け、午後は華道・茶道・書道・浴衣など日本文化の講習や各学科が催す学生交流会に参加したり、学内の「大分香りの博物館」や観光施設の「高崎山」、「アフリカンサファリ」、「地獄（巡り）」などの見学も行いました。

今回の学生交流会は、大学の国際言語･文化学科、史学･文化財学科、食物栄養学科、発酵食品学科および短期大学部の初等教育科の５学科が開催しました。芸術系コースの「卒展」見学、博物館施設案内、「うどん」作り、「バレンタインのお菓子」作り、日本の伝統的な遊び体験など、各学科の特色を十分に生かした交流会に、セミナー生も大変満足していました。また、宿泊した鉄輪温泉に魅了されたセミナー生も多く、参加した皆さん全員が充実した研修を体験することができたようです。

写真は本学学生とセミナー生の交流の様子

地域とともに歩む（地域連携）

学校法人別府大学は1908年の「豊州女学校」開学以来、100余年にわたり大分の地で学校教育に携わってきました。その間、郷土の多大な恩恵を受け、地域に根ざした学園として発展することができました。私たちはこのことを常に心に留め、教育・研究を通して郷土大分に貢献することを学園の重要な使命と考え、その実践に努めてきました。

本号から本誌に「地域とともに歩む」のコーナーを開設し、そのような地域貢献あるいは地域連携について、各年度の取組みを紹介したいと思います。

Ⅰ．地域連携

別府大学・別府大学短期大学部は、教育・研究の目標の一つに「地域に学び、地域に貢献する大学」を掲げています。教育に関しては、学生の実践力や主体性を育むため、学生主体の地域活動を授業で数多く展開しています。研究に関しては、多くの分野で地域の課題解決や発展に寄与する研究を行っています。また、教育・研究以外にも、大学の人的・物的・学術的なリソースを地域の求めに応じて提供し、文化や生涯学習の発展に寄与しています。近年は県や市との交流協定の締結が進み、今後さらに地域との連携が深まることが期待されています。平成25年度の地域連携活動の一例をご紹介します。

大分の「食品産業」「食と健康」への協力

別府大学は、大学が管理栄養士、短大が栄養士の養成施設に指定されており、全国でも珍しい発酵食品の専門学科も擁しています。一方、大分には関アジ関サバ、臼杵ふぐ、城下カレイ、豊後牛、椎茸、カボスなど全国ブランドの食材・食文化があります。本学は、大分の豊富な食材を生かした加工食品の開発や、食と健康の推進などの分野で、地域・企業から商品開発の相談や受託研究、食育活動への協力依頼を毎年数多く受けています。

歴史遺産を生かしたまちづくり

別府大学には、西日本屈指の歴史・文化財の専門学科があり、歴史遺産の保存・活用に向けて自治体等との連携を積極的に進めています。

例えば、大分県には国の重要文化的景観に指定された地区が3か所（豊後高田市田染小崎地区、別府市鉄輪温泉地区、日田市小鹿田焼の里地区）あります。別府大学はこれらの市や地区と長年にわたって協力し、景観に関する学術調査を行い、重要文化的景観の国指定に大きく貢献しています。さらに、これらの地域連携活動は、世界農業遺産（日田市、宇佐・国東地域）の指定に結びつき、今後は宇佐・国東地域の世界遺産の登録が期待されています。

日本酒用「大分酵母」に関する地域共同研究

別府大学は、大分県酒造協同組合と協力して、日本酒の醸造に最適な大分県独自の酵母（大分酵母）を獲得するための共同研究を行っています。別府大学は、この研究過程と成果を学生の教育に活かし、醸造現場の第一線で働ける微生物の専門家を育てています。また、共同研究が実を結び、「大分酵母」を生かしたおいしいお酒が開発され、大分の醸造産業の発展に寄与することが期待されています。

Ⅱ．高大連携

21世紀は「知識基盤社会」の時代といわれます。このような時代にあって、高等教育機関の存在はいよいよその重要性を増してきています。地域の高校生が大学を始めとする高等教育機関にスムーズに進学できるように、高等学校と連携を図ることは、地域の大学の重要な勤めです。別府大学・別府大学短期大学部は県内高等学校の進路学習あるいはPTA活動に協力し、高大連携、高大接続の取組みを積極的に展開してきました。

別府大学説明会とオープンキャンパスの開催

2013年6月18日、本学学園の経営および教学の基本的姿勢や実績を県内の高等学校に理解してもらうため、各高等学校長を招き「別府大学説明会」を開催しました。また、県内外の高校生に本学の教育や学園の環境を理解してもらうため、4月21日、7月15日、8月16日にオープンキャンパスを開催しました。

進学説明会の開催

本学の各学部責任者が県下高等学校に出向し、進学指導に当たる3学年クラス担任に対し、本学の教育および卒業後の進路等について説明を行いました。本年度は5月から8月にかけて、県下60校のうち31校（大分南、津久見、大分豊府、中津北、由布、大分雄城台、三重総合、安心院、大分鶴崎、大分西、情報科学、森、別府商業、別府青山、別府羽室台、大分、高田、大分商業、明豊、大分鶴崎、別府鶴見丘、日田三隈、日田、佐伯豊南、爽風館、日出暘谷、佐伯鶴城、国東、大分東、宇佐、竹田／開催順）において説明会を開催しました。

進路学習会、PTA学校見学会の開催

県下高等学校の進路学習およびPTA活動に協力し、各高校の生徒および保護者を本学に迎え、進学の意義、大学･短大･専門学校の違い、大学･短大の教育（教養教育、専門教育、免許･資格教育）、卒業後の進路等について講話を行い、また学科による模擬講義・実習や各高校の卒業生による懇談会を開催しました。本年度は、進路学習会は6校（明豊、福徳学院、別府商業、由布、佐伯豊南、日出総合／開催順）を対象に延べ9回、PTA学校見学会は8校（明豊、大分鶴崎、佐伯豊南、三重総合、大分西、情報科学、大分東、高田／開催順）を対象に開催しました。

その他の取組み

この他、県内外の高校の依頼を受けて、各学科の教員が専門を生かした出向講義を行いました。直近の事例では、今年（2014年）2月14日、別府商業高校PTA主催の「みんなで卒業後を考えるday」に出向し、歴史学（講義）と食物栄養学（実習）の授業を行いました。

また、県下各高等学校で開催される業者主催の「進学ガイダンス」にも、各学問分野の代表として、積極的に参加しました。

いきいき別大生・明豊生

フットサル部の活動（別府大学スポーツ振興会）

文学部　国際言語・文化学科　３年
フットサル部　主将　佐藤伊織

こんにちは！フットサル部です。フットサル部は男女共に楽しく、そして真剣に練習に取り組んでいます。また、練習だけではなくリーグ戦にも参加しているので、真剣にフットサルをしたい人も、楽しみたい人も、是非練習を見に来てみてください。

他にも練習だけではなくキャンプや遠征など学外活動も色々と行っているので、大学生活の思い出づくりにはもってこいのサークルです。きっとフットサルに入ってよかったと思ってもらえると思います。大学に入学してからもスポーツを続けたい人、経験者じゃないけどフットサルに興味をもった人、そしてたくさんの仲間を作って大学生活を楽しみたい人、是非一度フットサルを見に来てみてください。僕たちも楽しみに待っています。

フットサル部の練習風景

演劇部の活動（別府大学文化会）

国際言語・文化学科　３年
演劇部　部長　福元龍之介

みなさん、演劇部と聞いて、まず何を思い浮かべますか？「練習がハード」、「演技がうまくないとダメ」などなど、少し敷居が高いイメージをもっているのではないでしょうか。もちろん演技がうまければ、それなりに劇もできます。しかし、私たち演劇部はみんな大学に入ってから劇を始めた初心者ばかりです。むしろ経験者は一人もいません。それでも各公演に向けて全員で力を合わせて一つの劇を作っていっています。初心者集団だからこそできるサークルなのです。

主な活動は年三回の公演のほかに、カレーやおでんを作ったり、みんなで遊びにいったりと和気藹々の雰囲気の中で活動しています。最大の魅力は、週に四回も練習するため、部員同士が顔を合わせる時間が多いということです。どのサークルよりも部員同士の仲の良さには自信があります。一度きりの本番に向けて、ときに厳しくときに楽しい時間を過ごし、日々努力を積み重ねながら活動を続けています。

演劇部発表会の様子

大分市成人式記念集会の実行委員として

別府大学短期大学部　保育科　２年
西中愛海・山本明美

2014年１月12日に、初の開催場所となる「ホルトホール大分」において、「平成26年大分市成人記念集会」が行われました。

私たちは、昨年９月から成人記念集会の実行委員として企画を進めてきました。実行委員には、他大学の学生や社会人の方々もいるので、当初は皆さんとうまくやっていけるか少し不安でした。しかし、話し合いを重ね、企画が具体化していくうちに、お互いの気持ちもほぐれ、実行委員として大分市の成人記念集会の企画に携われる楽しさややりがいを感じるようになりました。企画の打合せとは別に、実行委員で会合を持ちいろいろな話をして、メンバー同士の関係を深めることもできました。

成人の日当日は、晴天に恵まれ成人記念集会を無事終えることができました。私たちは、ゲストのななみさんとも握手や記念撮影ができ、とてもうれしかったです。

この成人記念集会の実行委員をやったことで、様々な人と出会い、多くの経験をすることができました。私たちは、この出会いに感謝し、今年度の成人記念集会のテーマであった「勇往邁進（ゆうおうまいしん）～自分たちの夢に向かって～」のとおり、保育者として活躍の場を広げていくよう頑張っていきたいと思います。

大分市成人記念集会の様子

明豊中学野球部が全国大会に出場

この度、明豊中学野球部が2014年３月21日から始まる「第５回全日本少年軟式野球大会」に出場することになりました。本大会は、高校野球の甲子園大会に相当する中学野球の全国大会です。

明豊中野球部は、昨年（2013年）８月に行われた大分県のブロック大会３試合を難なく勝ち上がり、10月の県大会（だいぎんスタジアム）では、２枚看板の小塩遥己・佐藤楓馬両投手が１回戦（中部中）から準決勝（中津緑ヶ丘中）までを完封（１・２回戦はともにノーヒットノーラン）、決勝戦で臼杵西中を２対１で破り、県優勝を果たしました。

11月に熊本市（水前寺球場）で開催された九州大会では、小塩・佐藤両投手が１回戦の鹿屋中、準決勝の東海中を見事完封で打ち破り、決勝戦に進出しました。決勝戦の相手は長崎の強豪波佐見中で、接戦のすえ最終回に得点され、惜しくも逆転負けを喫しました。九州大会は残念ながら準優勝に終わりましたが、静岡で行われる全国大会への出場を決め、３月に全国制覇を目指します。

明豊中野球部は２年生８名、１年生12名と部員数は決して多くはありませんが、精鋭揃いです。上谷監督の指導の下、全国大会に向け日々練習に励んでおり、学園もこぞって応援しています。

明豊中野球部の諸君

がんばってます留学生

「第26回大分分区留学生交流会－運動会－」に参加

2013年５月12日、「第26回大分分区留学生交流会－運動会－」が大分市南部公民館にて、国際ロータリー第2720地区ローターアクトの主催で開催されました。

本大会は、「WA～一期一会～」をテーマに、日本独自の「和」のイベントである「運動会」通し、日本人と外国人留学生との交流を深めることを目的として行われました。競技は綱引き、玉入れ、大綱引き、大玉ころがし、二人三脚など、どれも「和」を意識したものばかりで、テーマに沿った競技が選ばれていました。

本学からは、大学から９名、短期大学部から３名の計12名の外国人留学生が参加しました。参加した学生たちは、初めての競技で四苦八苦したようですが、みんなと一緒に汗を流し、交流を深め、楽しいひと時を過ごしたようです。

運動会に参加した留学生

明豊小の「英会話交流会」に参加

2013年７月17日、明星小学校の６年生が学校で学んだ英会話力を確認することを目的とした交流会が行われました。今回で３回目となるこの交流会には、これまでにスリランカ、タイ、韓国、中国の外国人留学生達が参加しています。

今回の交流会には、４名の留学生が参加し、児童たちが日本の「遊び」について英語で説明し、実際にその「遊び」を一緒に行い楽しみました。

交流会の前に「自信がない」と話していた留学生達でしたが、会終了後の感想では、「すごく楽しかった」、「また参加したい」、「子供たちの笑顔が良かった」などと笑顔で話していました。

この交流会は、９月と２月にも予定されており、９月の交流会では、留学生が子供の時に行っていた自国の「遊び」を紹介し、児童たちと一緒に実際に遊んでみようという企画が考えられています。

留学生との交流会の様子

「めじろん海外特派員」に任命

2014年１月22日、本学にて平成25年度「めじろん海外特派員」の任命式が執り行われました。この「めじろん海外特派員」とは、大分県内の大学を卒業した留学生の中から大分県のPRや海外大分県人会との交流を持ち、卒業後も大分県と出身国との架け橋となる人材を、大分県が選考するものです。本年は、合計４人の留学生が選ばれ、本学から文学部国際言語・文化学科の蔡燕華さん、史学・文化財学科の曹承喜さんの２名が任命されました。二人とも「身に余る大役に緊張いたしますが、精一杯頑張っていきたい」と意気込みを述べていました。

左が蔡さん、右が曹さん

「別府市地域安全大会」で講演

2013年10月12日、別府警察署４Ｆ会議室において、「平成25年度別府市地域安全大会」が開催されました。当日、本学文学部国際言語・文化学科の李受妍さんが、「外国人から見た日本・別府市の治安について」というタイトルで講演をしました。李さんは、日本と韓国の交通事情や防犯の状況など、自らの経験をもとに語りかけました。特に、日本の歩行者優先の精神に触れ、文化の違いを体感したこと、また、韓国に比べ街灯や防犯カメラが少ない市内の道路を取り上げ、今後みんなが安心して生活できるように改善してもらいたいといった話をしました。会終了後、参加者からの反響も良く、関係者も改善に取り組みたいと感想を述べていました。

講演する李さん

学園を支えていただいた方々

長年にわたり大学・短大を支え、2013年度をもって本学をご退任される先生方の足跡を紹介させていただきます。皆さん、大変お世話になりました。（文中の①は在職年数、②は専門分野、授業科目、本学でやりたかったこと等、③はご退任に当たっての言葉です）

金子 進之助 先生（別府大学短期大学部学長 地域総合学科）

①24年間　②（初等教育科・保育科）児童福祉・臨床心理学・保育実習（保育所以外の施設）　（地域総合科学科）プレゼンテーション・心理学　（食物栄養科）心理学　（専攻科福祉専攻）コミュニケーション技法　（専攻科初等教育専攻）対人援助演習　（大学院文学研究科臨床心理学専攻）演習・臨床心理学関連行政論・心理療法特論　短期大学部では保育士の養成を中心に、介護福祉士養成にも携わりました。保育士は幼児の保育だけではなく、0歳から18歳までの児童の養育（保育・養護）に携わる専門家です。私は特に保育所以外の施設（障害児や児童養護施設などの）で児童の養護や支援を行う部門を担当しました。また地域総合科学科や食物栄養科学生に心理学を講義しました。短大の専攻科福祉専攻では、心の介護（コミュニケーション技法）を担当し、初等教育専攻では、構成的グループエンカウンターの演習を担当しました。大学院臨床心理学専攻では集団心理療法（心理劇）や臨床心理学に関連した行政機関や福祉・医療機関との連携について講義しました。さらに実習や学生の担当したケースのスーパービジョンを行いました。学生に自分の得たものを少しでも還元できたことに満足しています。　③学生諸君が社会の中で「一隅を照らす」仕事をしてくださることを期待します。

松本　泰丈 先生（文学部 国際言語・文化学科）

①前後あわせて5年9ヶ月か。　②日本語文法（標準文章語・奄美諸島方言）、1980年以降言語類型学も。講義でほかに日本語語彙論、言語学。ただ、奄美の方言や奥田靖雄の言語研究、クリモフの内容類型学のことは、まだ紹介がたりなかった。③授業でも授業外でも、いろいろまなぶことがあった。学生の論文指導をとおして、最後まで教員生活をたのしんだ。ナマケモノが70すぎまでつとめられたのは、学科・学部の諸先生はじめ、教職員各位の寛容のおかげとひとえに感謝。

東　真千子 先生（文学部 国際言語・文化学科）

①5年間　②専門分野:後期近代英語、現代英米語法　授業科目:一般教養英語、英文法、英語学概論、英語学演習、英語学特殊研究　③人間関係学科、国際経営学科、国際言語・文化学科と3つの学科に所属し、様々な分野の先生方、そして学生たちと接する機会を頂きました。それぞれの学科の特色を感じることができ、大変貴重な経験を積むことができました。別府大学にはひたむきにコツコツと頑張る学生が多く、私もその姿勢に励まされ、楽しく授業ができたように思います。また職場環境にも恵まれ、多くの先生方、職員の皆様に支えていただけたことを心から感謝しております。本当にありがとうございました。この伝統ある別府大学のさらなる発展をお祈りいたします。

米持　英俊 先生（食物栄養科学部 食物栄養学科）

①職年数:6年　②専門領域は循環器内科・臨床検査学で食物栄養科学部では「人体の構造と機能、疾患の成り立ち」の講義・実習を担当しました。　③別府大学でカルチャーショックを受けると同時に、日本社会の本音の部分に触れる貴重な機会を得ました。それでも、大学で非常に楽しい時間を過ごせたのは学生と若い先生方のお陰と感謝しています。老兵はただ去るのみ、10年目の節目を迎えた食物栄養学部が若手教官と学生こそが主体の学部に発展することを期待しています。私も新たな勤務先の大学で頑張る所存です。重ねて、関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。

今野　宏之 先生（食物栄養学科部 発酵食品学科）

①28年　②専門分野:量子論史、授業科目:科学史、科学技術論、物理学など。講義は教養教育担当なので、専門分野を教える機会はありませんでしたが、文系の学生に科学のおもしろさを知ってもらいたいという気持ちで授業をしてきました。　③少子化という厳しい環境の中での別府大学の地道な取り組みを応援しています。

松本 比佐志 先生（食物栄養学科部 発酵食品学科）

①8年間　②専門分野:食品衛生、環境衛生、微量機器分析など。授業科目:食品衛生学、食品衛生学実験、食品関係法規、食品保蔵科学特論など。　③若い学生に接し元気をもらったことを有り難く感じています。大学生活4年間は、何事にも積極的に挑戦できる時期なので自己研鑽に心がけて頂きたいと切望しています。そのことが、人生の岐路に立った時、未だ厳しい状況の就職戦線、資格や技術の獲得、などにおいてきっと役立つ手段になると信じています。教員ならびに事務の皆様には大変お世話になり、本当に有難うございました。学園の益々のご発展を祈っております。

土谷　洋子 先生（短期大学部 食物栄養科）

①6年間　②栄養教育:栄養教育論実習、栄養カウンセリング実習、応用栄養学　③「減塩でもおいしく食べる工夫」をテーマに3回にわたり「健康展」を開催できたことは、学科皆様のご支援の賜物と改めて感謝申し上げます。良い思い出になりました。「減塩」に心がけ、健康寿命を少しでも延ばして頂きたいと存じます。別府大学のさらなるご発展と皆様のご活躍をお祈り致します。有難うございました。

三ヶ尻 政人 先生（短期大学部 初等教育科）

①2年間　②教育学、（国語科指導法、社会科指導法、教育課程持論、教育実習指導など）わずか2年という短い期間でしたが、主に小学校教師を目指す学生さんと楽しく授業ができました。授業を通して、小学校教育の大切さを再認識することもできました。③大学勤務では、多くの人にご指導、ご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

岡留　政嗣 先生（短期大学部 初等教育科）

①2年（平成26年3月末予定）　②専門分野:音声コミュニケーション、授業科目:文学（初等教育科、保育科）、演習（初等教育基礎演習、保育教職演習、総合表現演習）、ビジネス実務演習I（地域総合科学科）、ビジネス実務演習II（地域総合科学科）、人間関係論（地域総合科学科）、接客マナー（地域総合科学科）、マスコミ論（文学部）、情報文化論（文学部）、ビジネス日本語（文学部）、力を入れたこと:「文学」では、作品の内容を理解し感性の豊かさを育むと同時に、子どもたちへの読み聞かせなどの向上を目指しました。私の意図を受け止めてくれた学生が少なからずいたことを実感しています。「人間関係論」「接客マナー」「ビジネス日本語」では、専門のビジネスコミュニケーションの基本を伝えることができたと思います。特に、文学部の講義では、留学生の皆さんと交流ができたことがとても楽しい思い出になっています。「マスコミ論」「情報文化論」では、メディアの情報の出し方、影響、我々がそれをどう受け止めるのかを、放送映像を教材に学生の皆さんと考えてきました。100人を超える学生の皆さんと意思疎通を図るため、毎回リポート提出を求めましたが、皆さん一所懸命取り組んでくれました。毎週日を過ずのはちょっとした作業でしたが楽しい時間でもありました。　③様々なタイプの学生と交流ができて楽しい期間でした。特に何人かの留学生と親しく交流ができたことが得がたい体験でした。2年経験して、私なりのスタイルが見えて来たところだったので、退職は正直残念です。ただ、4月からの新しい生活の財産にもなります。ありがとうございました。

長木　正治 さん（大学事務局長）

①9年間　②大学事務局職員として大学の管理運営に従事　③半世紀近くにわたって文教関係の仕事に従事してきました。その道程は、山あり、谷ありで決して平坦なものではなかったと思っています。そしてこの間には多くの人々と出会い、ふれ合いがあり、その時々にそれらの人々からご指導・ご支援を戴きました。心から感謝とお礼を申しあげます。別府大学には9年間勤務し、大学の管理運営の一翼を担わせていただきました。大学を取り巻く環境は国立大学の法人化などもあって厳しい状況下であり、個々の大学においては、種々の改革が強く求められるときでありました。このようなときに、自分は別府大学のために真に貢献することができたかどうか自問自答しています。別府大学のますますのご発展をご祈念申し上げます。

遠藤　隆義 さん（大分校舎 事務局）

①41年10ヶ月　②図書館19年4ヶ月、入試2年、教務課8年、大分キャンパス12年6ヶ月　③それぞれの部署で全力をだして働きました。勤め始めたころには女専の時代に在籍されていた方もおられ、多くの先生方と交流できたことが私の財産です。佐藤義詮先生の時代から別府大学が行ってきた教育は「多様な価値観」を身をもって教えることだったと思います。原点を振り返り別府大学の魅力を出してください。多彩な人材とともに、別府、大分キャンパスはすばらしい施設を持っています。地域と連携することが評価となり発展につながります。県内外に知られるこれだけの伝統とOBはゆるぎない財産です。これを基盤として新しい時代の教育に取り組んでください。

波多野 静夫 さん（メディア教育・研究センター）

①7年　②大学事務局（メディア教育・研究センター）　③7年間大変お世話になりました。メディアセンターにて、学生さんに指導等を行って教えることの難しさを痛感いたしました。これも、人生の糧とし、いい経験をさせていただき感謝しております。別府大学のご発展をお祈り申し上げます。

福山　元子 さん（大学事務局 学生課 臨床心理相談室）

①6年　②担当部署など:臨床心理相談室で時に相談員、時に事務員、時に大学院生の指導員として色々な役をさせていただきました。　③退任に当たって:6年間、個性豊かな院生と先生方、職員の皆様に囲まれて、充実した日々でした!　ここでのご縁と経験を心の糧に今後の臨床活動に尽力していきたいと思います。大変お世話になりました。皆様に心より感謝いたします。

朝井　智子 さん（大学事務局 初等教育科 実験助手）

①2年間　②初等教育科事務　③2年間という短い期間でしたが、学生や教職員の皆様に支えられ楽しく過ごすことができました。母校でもある別府大学で事務職員として働けたこと、たくさんの方々と出会えたことは非常に貴重な経験となりました。本当にありがとうございました。

後輩への言葉

学園のそれぞれの学校を卒業する皆さんが、在学中の思い出や後輩に伝えたいメッセージを、綴ってくれました。皆さんのお言葉を大切に心に仕舞っておきます。

川内　彩歌 さん
（文化財学専攻博士前期 佐世保東翔高校出身(長崎県)）

別府に学び六年が経ちました。入学当初は漠然と、人の作り成した物に触れたかったように思います。文化財を知るにつれ、軍港として栄えた地元への思い入れがあった事もあり、近現代の遺産を中心に研究テーマを定めました。その過程は文化財科全ての先生方の御協力あってのものです。例え専門外であろうと多くの指導を頂け、充実した時間を過ごせる環境が別府大の美点だと感じます。
　在学生の皆様へ、今後の御活躍、精彩たる日々を歩まれる事を期待しています。

加藤　剛士 さん
（食物栄養学専攻修士 竹田高校出身(大分県)）

食物科学専攻では、大学生よりも詳しい内容を講義で受ける事ができ、さらに2年間、修士論文のための研究を行うことができます。講義の内容を理解することや研究を行う事はとても大変でしたが、とても興味深く楽しく日々の生活を送りました。そして、私は大学院生としての2年間の生活の中で様々な知識や技術を身につける事ができました。
　別府大学には文系の大学院も設置されています。学問をさらに探求したいと思っている方には、最適な環境です。

太田　愛子 さん
（国際言語・文化学科 大分鶴崎高校出身(大分県)）

大学では多くの出会いがあります。その出会いを大切にする事で大学生活の価値が、大きく変わってくると思います。私は授業では、教授から多くの事を学び、部活動では、仲間と信頼を築く事ができました。これはとても大きな財産であり、誇りです。そしてこれからの自分の支えになることでしょう。大学生活をどれほど充実したものにできるかは、自分次第です。皆さんも悔いの残らないよう価値のある大学生活を送って下さい。

佐々木　公平 さん
（史学・文化財学科 田川高校出身(福岡県)）

私は、歴史、特にエジプト学を学ぶために別府大学に入学し、その後も大学院進学を目前の目標として常に意識してきました。後輩の皆さんの中には、すでに目標が明確な人も、まだ明確でない人もいると思います。
　大学では自分の将来についてじっくり考えることができるので、少しずつ目標を定めてみて下さい。そして少しでも目標が定まってきたら、どんどん挑戦していきましょう!!
　念じて努力すれば、花はいつかきっと咲きます!!

安部　沙貴子 さん
（人間関係学科 碩信高校出身(大分県)）

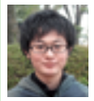
私が大学生活を過ごすうえで大切だと感じたのは、友人の存在です。社会福祉士の資格取得に向けて、必要単位数の確認や実習など、一人では戸惑うことが多々ありました。そうした時、支えあっていける友人がいることは、大きな励みになりました。学科やゼミで出会った仲間、先生方との出会いを大切にし、学びを深めていってほしいと思います。充実した大学生活を送ってください。

髙橋　克典 さん
（国際経営学科 大分鶴崎高校出身(大分県)）

就職活動をしていく中で、私が感じたのは、様々な仕事について現場の人に会うことで、私は自身がやりたい仕事や社会での多くの出来事に対しての見聞を深めることができました。また、簿記、会計学等を学び、資格試験にも真摯に取り組んだことにより、日商簿記2級にも合格し、面接での武器にすることができました。在学生の皆様は、これから、将来について考えることになると思いますが、是非、多くの現場の人に会い見聞を深め、自身の将来に役立ててください。

奥　亜梨紗 さん
（食物栄養学科 大分豊府高校出身(大分県)）

大学の4年間はあっという間でした。専門性の高い授業や実習にたくさんの不安がありました。しかし、同じ「管理栄養士」という夢をもつ仲間と高め合い支えあって乗り越えてきました。また先生方も親身になって相談にのってくださいます。私はフランス研修や学祭での出店など大学ならではの貴重な経験をすることができました。大変なこともありますが、時間がある今だからこそ旅行やアルバイトなど毎日充実した大学生活を送ってください。



渡壁　理志 さん
（発酵食品学科 西京高校出身(山口県)）

私は大学ではサークルには所属しませんでしたが、夢米棚田チーム（学科リーダー）、オープンキャンパススタッフ（ほぼ毎回）、国際交流のイベント、高校の出前実験など、様々なイベントに積極的に参加してきました。このような経験はこれからの仕事や生きるうえでとても役に立つ貴重な経験だったと思います。大学は自由な時間が多いです。皆さんにはアルバイトばかりでなく、大学のイベントも含めて様々な経験をしてほしいです。

濱村　紗和子 さん
（食物栄養科 日向高校出身(宮崎県)）

私は「何事にもチャレンジ!」の精神で、短大生活を過ごしました。栄養士、中学校家庭科教諭、栄養教諭の免許取得を目標に、病院実習や教育実習に励みました。放課後はなごなな部員として、また寮では先輩との共同生活を通してコミュニケーション力や協調性を身につけようとしました。多くのことへの挑戦は、苦労や悩みもありましたが、友人や先生方、実習先で出会った方々のおかげで乗り越えることができました。後輩の皆さん、チャレンジ精神を忘れず夢の実現のために頑張ってください。

二宮　由佳 さん
（初等教育科 杵築高校出身(大分県)）

初等教育科では、授業や実習、そして研究会活動を通して保育者になるための基礎や、子どもと関わる力等を身につけていきます。私は幼児canぷ研究会の活動を通して、授業だけでは得られない貴重な体験をしながら、保育者としての実践力を身につけることができたと実感しています。この2年間、充実した日々を送ることができました。皆さんも、様々なことに挑戦して、有意義な大学生活を送れるよう頑張って下さい。

小高　由紀 さん
（地域総合科学科 日杵高校出身(大分県)）

卒業するにあたり、私から後輩のみなさんへ伝えたいことは、「何事にも積極的に参加すること」です。私は入学して以来ほとんどの大学行事に関わってきました。いろいろなことに挑戦することで、今まで気づかなかったことに気づいたり、仲間と共に作り上げる喜びを感じたりと、多くのことを学びました。いろんな人たちと接することで私自身成長できた気がします。卒業後も学生生活で学んだことを生かして頑張りたいと思います。

小野　加奈恵 さん
（保育科 大分南高校出身(大分県)）

私は保育士になることを目指してこの大学に入学しました。短大での生活は、多くの友人に恵まれ楽しい毎日を過ごすことが出きました。実習前は不安がたくさんあり、嫌だと思う気持ちもありましたが、幼稚園や保育園の子どもたちは本当に可愛いく、また学ぶことがたくさんあり、毎日が貴重な経験となりました。
　保育科を目指す学生の皆さん、不安なことはたくさんあると思いますが、保育科の先生方がどんな時も味方になってくれると思います。夢を諦めずに頑張って下さい。

チーワクルタムヌ・タンヤポーン さん
（別科日本語 タイ出身）

私は別科で一年間勉強しました。日本へ来た日は初めてのことばかりで不安でいっぱいでした。勉強のことや一人でくらすことなどいろいろなことを考えていました。でも授業が始まると友だちも別科の先生方もとてもやさしくて安心しました。何か問題があった時もいつもそばにいて私がわかるようにゆっくり教えてくれました。別科で出会った人々、経験したたくさんの事すべて私にとって大切な事です。ここで勉強できて、とても幸せです。

中谷　仁美 さん
（看護専門学校 野津高校出身(大分県)）

私の看護学校での2年間は驚くほど早く、でもとても充実した日々でした。「看護」とは言葉にすれば簡単です。人それぞれ考え方がちがうように看護観も人それぞれちがいます。先生方のご指導のもと、実習を通して患者様と接していくなかで自分の看護観を見つめながら「看護」ついて学ぶことができました。看護の勉強は大変です。人と接してゆく職業ですから。しかし、得るものもたくさんありました。友人や共に励ましあえる仲間を得たことです。看護学校で得たことを糧に、日々成長し頑張っていきたいと思います。

韓国・龍仁大学校金総長に名誉博士号を授与

法　人

2013年12月3日、学園は「学校法人別府大学名誉博士称号記授与式」を挙行し、韓国の龍仁大学校総長金正幸（キム　ジョンヘン）氏に名誉博士（国際経営）の称号を授与しました。龍仁大学校はオリンピックを始めとする国内外のスポーツ競技で優れた実績を有する、韓国でも著名な大学です。本学とは、昨年（2013年）11月に交流協定を締結し、毎年、同校の短期留学生を本学が受け入れるなど、鋭意交流を進めているところです。

金氏は現在、龍仁大学校の経営に当たられるとともに、韓国体育協会会長、韓国柔道連盟会長などの要職をつとめ、韓国スポーツ界のトップとして活躍しておられます。特に氏は現在、韓国オリンピック委員会会長の職にあり、2018年に韓国・平昌（ピョンチャン）で開催される冬季オリンピックでは、総指揮を執られるとのことです。授与式には、氏のご友人で韓国の国立慶北大学校総長咸印碩氏も出席されました。金総長の今後ますますのご活躍とご健康を祈念申し上げます。

前列中央が金正幸総長と奥様の
趙明子氏、前列右端が咸印碩総長

新しい教職員住宅が完成

法　人

2013年12月11日、学校法人別府大学の新しい教職員住宅「別府大学桜ヶ丘住宅」（別府市桜ヶ丘4組1）が完成しました。当住宅は去る5月20日に起工し、以後順調に工事が進み、このたび竣工の運びとなりました。当日は本学関係者、地域の代表、工事関係者によって、厳かに竣工式が執り行われました。

当住宅は延べ床面積1143㎡、鉄筋コンクリート造5階建で、2DKの住居が20戸入っています。全室に対面式システムキッチン、ウォシュレット、全棟LED照明など現代的な設備が施され、エレベータが設けられています。大学から徒歩3分と立地にも恵まれ、居住者には快適な生活環境が提供されています。

「別府大学桜ヶ丘住宅」の
正面入り口

12月11日に挙行された法人関係者による竣工式の様子

「大分ユーモアまんが大賞」が決定

国際言語・文化学科

2010年度に別府大学創立60周年事業として始められたまんが大賞も第4回を迎え、全国各地の幅広い層から多くの楽しいユーモアまんが作品をお寄せいただきました。（ショートストーリーおよび四コマまんが部門126作品、一コマまんが・まんがイラスト部門135作品、合計261作品）中には、高等学校のパソコンの授業で応募作品の制作に取り組んでいただいたという、うれしい例もいくつかありました。

四コマ部門、一コマ部門の
大賞作品（上「お預かりします」、下「コスプレ」）

厳正な審査の結果、大賞には四季千尋さん（新潟県）の「お預かりします」、一コマまんが部門は梶原寛樹さん（北海道）の「コスプレ」が選ばれ本学ホームページでWEB公開されると共に、卒業制作展に合わせ大分県立芸術会館で展示会が開催されました。

今回は四コマまんがが、質・量ともに大充実で、優秀作品はいずれ劣らぬ個性的な作品が並びました。まだご覧になっていらっしゃらない方は、ぜひ本学ホームページでお楽しみください。

史学科創立50周年記念大会を開催

史学・文化財学科

2013年11月23日、史学科創立50周年記念大会を開催しました。当日は卒業生・教員・学生約150人が参加しました。大会では、後藤宗俊別府大学名誉教授による記念講演「地域文化の継承と歴史学」が行われた後、「卒業生の現場から」と題して、熊本市立博物館の福西大輔氏（文化財学科1期）、東かがわ市教育委員会の萩野憲司氏（史学科31期）、宗像市経営企画部世界遺産登録推進室の岡崇氏（同26期）、高知県香美市ふれあい交流センターの中川泰弘氏（同24期）、田川市産業振興部の森本弘行氏（同15期）が、それぞれ現在取り組んでいる活動について報告を行いました。史学・文化財学科と史学研究会では50周年を機会に、研究奨励賞の制度を新しく立ち上げ、卒業生の活躍を応援することにしました。

夕方の記念パーティには90名余が参加しましたが、ここで1期生の方から当時の考古遺跡発掘現場に掲げられていた学科旗の披露があり、記念にふさわしい貴重なハプニングとなりました。

50年前の学科旗の披露（記念パーティー）

「冬粋祭」の準備に学生が参加

人間関係学科

2013年 11月 30日、別府公園で行われた「冬粋祭」の準備に、人間関係学科の学生（主に2年生）が参加しました。このイベントは、別府市商工会議所青年部が毎年実施しているもので、別府公園を 20万個を越えるイルミネーションで彩り、多くの市民・観光客が訪れます。

本学科は、「地域がキャンパス」を合言葉に、地域社会に積極的に関わり、地域の人々から多く学ぶことを重視しています。この冬粋祭の準備にも、これまで地域の福祉施設の子ども達とともに参加してきました。

当日は、昨年と異なり晴天に恵まれ、作業は順調に進みました。学生の多くはアルバイトを経験していますが、仕事を離れ、地域のために汗を流す人たちの姿に接することはほとんどありません。青年部の皆さんから励まされたり、叱咤されたりしながら、取り組んでいる学生の姿は、微笑ましいものがありました。学生は、それぞれチームを作り、グループ作業に取り組みましたが、その様な作業の中で、新しい出会いや絆も生まれたようです。

冬粋祭の準備の様子

別府大学生による料理コンテスト「学食メニューを考えてみよう」を開催

食物栄養学科

2013年9月 28日、食物栄養学科は本学学生による料理コンテストの第3弾として「学食メニューを考えてみよう」を開催しました。親元を離れ一人暮らしをしている学生は、外食やコンビニ弁当、ファーストフードなどで食事を済ませることが多く、塩分や脂肪の過剰摂取の原因となっています。大学生への「食育」は、健康管理や生活習慣病の予防だけでなく、学力向上の点からも必要で、大学でも積極的に取り組むことが求められています。そこで食事バランスに配慮した学食メニューを学生自ら考案することで、自分自身の健康や食習慣について理解を深めてもらいたいと考えました。

今回のコンテストには 15組 30名の応募があり、厳正な審査の結果、定食部門・単品部門で最優秀作品等を選出しました。入賞作品に関しては、実際に大学の食堂にて限定販売し、大変好評でした。惜しくも入賞は逃した作品も、審査員を悩ます力作揃いでした。参加者の皆様、ご協力ありがとうございました。

第1回タイ研修旅行を実施

発酵食品学科

2013年9月2日から3泊5日で、発酵食品学科初となる“海外研修旅行 in タイ”を実施しました。参加者は4年生6名、3年生2名、教員2名の計10名です、訪問先は首都バンコクと東北部のウボンラチャタニ県です。ウボンラチャタニでは、国立ウボンラチャタニ大学を訪問し、また現地の発酵食品工場を見学しました。大学訪問では日本とタイの発酵食品に関するプレゼンを行った後に、試食会が行われました。日本の発酵食品では、「味噌汁」が人気でした。一方、タイの発酵食品については、魚から作る「プラーラ」、米を発酵させたものから作る麺「カノムジーン」、お酒「サト」などの製造実演が行われました。この実演には学生たちも加わり、貴重な体験をすることができました。また、発酵食品工場の見学では、発酵麺工場と蒸留酒工場を訪問しました。

日本でもタイ料理は味わえますが、やはり現地のものとは異なります。日本語が全く通じず、英語もあまり通じない地域に飛び込み、現地の食を体験できたことは学生にとって、大変有意義な経験となりました。

ウボンラチャタニ大学の学生たちと記念撮影

第3次オリエンテーションを実施

国際経営学科

2013年11月12日・13日、国際経営学部は1年生を対象に第3次オリエンテーションを「ゆふの丘プラザ」（由布市）で実施しました。12日は午後に大学を出発し、夕方から活動を開始しました。夕食までの2時間余りの間、ゼミ間での連携や交流を促進する目的で、ゼミ対抗のバレーボールを行いました。夜は1年生全体のコミュニケーションの促進を図るため、椅子取りゲームやビンゴゲームを行い、大いに盛り上がりました。翌13日は、午前中いっぱい、ゼミ対抗のサッカー試合を実施し、チームプレーの重要性を学びました。

このような団体行動・集団生活を通じて、学生同士および学生と教員が交流する機会を得るとともに、自己理解や他者との協調や相互理解を深める貴重な機会を得ることができました。今回の活動が、1年生にとって、円滑な人間関係を築き有意義で充実した大学生活を送るうえでの一助になればと思います。

ゼミ対抗サッカー試合の様子

「短期大学部創立60周年記念」特別講義の開催
ー第1期卒業生の工藤隆子先生から学生へのメッセージー

食物栄養科

2013年、別府大学短期大学部が創立60周年を迎えたのを記念し、食物栄養科は各種の記念行事を盛大に開催しました。6月の日本料理講習会を始めとして、8月にはハーブ料理&スイーツ講習会、10月にはフランス料理講習会を行い、これまで支えていただいた地域の方々に感謝の気持を伝えました。

11月27日には、食物栄養科第1期卒業生であり、2001年から3年間学科長を務められた工藤隆子先生をお招きし、「よき師との出会いの中で」と題した講演会を行いました。先生からは、「恩師との出会いを大切にし、知識や技術を積み重ね、免許を生かすことが未来の自分を構築する」とのお話をいただきました。また、学生はお礼の挨拶で「工藤先生のように目標を立てて、卒業後は栄養士として自分らしい花を咲かせたい」と述べました。聴講した学生・教員全員が工藤先生のお話に感銘を受け、この節目の年に気持ちを新たにすることができました。

特別講義の工藤先生を囲んで

「子どもの虐待防止フォーラム」に専攻科初等教育専攻の学生が参加

専攻科初等教育専攻

2013年11月16日、厚生労働省主催による「子どもの虐待防止推進全国フォーラム」が別府国際コンベンションセンターで開催され、第1分科会「虐待防止のための地域の取組」に専攻科初等教育専攻1年生の原尻亜耶さんがパネリストとして参加し、本学での「オレンジリボン運動（子どもの虐待防止推進運動）」の取り組みを発表しました。

九州各県での児童相談所や地域の子育て支援事業、地域協議会等の指導的立場の方々が報告・発表する中、原尻さんは、これから子どもたちの保育・教育の道に進んだり、母親として子どもを育てたりすることになる学生としての新鮮な立場から、虐待防止の啓蒙活動や親子イベントの場づくりなど、オレンジリボン運動での取り組みと活動を通して学んだことを発表し、他のパネリストや参加者から高い評価を得ました。

なお、フォーラムには初等教育科の学生も多数参加し、虐待防止について共に学びました。

フォーラムの発表の様子

短大創立60周年記念「異文化交流の集い」を開催

地域総合科学科

今年（2013年）短期大学部が創立60周年を迎えたのを記念し、地域総合科学科ではさまざまな記念行事を開催しました。11月23日に大分キャンパスで行われた秋桜祭では、学生たちが中心になって「異文化交流の集い」を開催しました。集いでは、最初に日本、中国、スリランカ、サウジアラビアの学生たちが色とりどりの民族衣装でステージに登場し、それぞれの衣装と国について紹介を行いました。その後、スリランカの学生が韓国人学生の演奏に併せて日本の歌を歌い、次いで中国人学生たちが息の合った創作ダンスと武術を披露しました。そして最後になぎなた部の日本人学生たちが、ユニークでひと味違ったなぎなたの演舞を見せてくれました。晴天にも恵まれ、今回の企画は多くの観客の注目を集め、秋桜祭に花を添えました。

留学生が民族衣装でパフォーマンス

保育科10周年記念の会「保育科の学生に贈るメッセージ」を開催

保育科

2013年12月14日に、大分キャンパス文化ホールにて保育科設立10年目を記念する会「保育科の学生に贈るメッセージ」を催しました。当日は、今まで保育科に在職されていた先生方と卒業生代表の3名（2期生、6期生、8期生）に列席していただいた、和やかな雰囲気で会を執り行うことができました。歴代学科長によるシンポジウム、10年の歩みをまとめたビデオの鑑賞、卒業生代表と在学生代表によるスピーチ、そして、最後は10年目を記念して10期生の掛け声による“バンザイ10唱”で幕を閉じました。題字は9期生が書き、来賓の名札は教員が手作りをするなど、一人ひとりを大切にするアットホームな保育科らしさが満載の会でした。歴代の先生方や卒業生からの温かな言葉をいただき、現教員と在学生は、保育科の絆を再確認し、10年目の節目にめぐり合わせた幸せをかみしめ、11年目につなぐ使命に心を熱くした2時間でした。

歴代学科長によるシンポジウムの様子

看護総合実習と看護管理特別講演

附属看専

昨年（2013年）12月、12日間（90時間）の看護統合実習を終了しました。この実習は看護学生としての2年間の総まとめの実習です。看護管理・医療安全・チームリーダー・複数患者受け持ち・夜間看護を実習内容に盛り込んでいます。

学生はこの実習を通し、目標思考で働くことが病院の組織目的の達成につながること、チームの一員としての報告・連絡・相談の重要性、命を守ること（=安全管理）、多重課題における時間管理の方法などを学び、大きく成長しました。しかし、これらは事前の準備と実習施設の多大な理解と協力の上に成り立っています。写真は、昨年11月27日、事前学習準備として本校にお越しいただいた社会医療法人恵愛会大分中村病院看護部長山田みゆき氏による「看護管理の実際」の特別講演場面です。看護観を基盤にした看護管理を熱く語る看護部長の講義は、看護統合実習に向けての動機づけと、大先輩から春に巣立つ後輩への心強いエールでもありました。

山田先生の特別講義の様子

韓国・釜山の鶴山女子中学・高等学校訪問とソウル市内高校生の来校

明豊中学・高校

明豊中学･高校は、開校以来、国際交流に力を入れ、海外の姉妹校も12校を数えるまでになりました。交流は姉妹校のみならず、別府大学の国際セミナーの機会を利用し、多くの海外の教育機関との間でも実施しています。この内、最初に姉妹校協定を結んだ韓国・釜山の鶴山女子中学・高等学校とは、14年間交流を続けています。今年（2013年）も12月21日から23日まで、中学・高校の13名の生徒が、同校を訪問し交流を行いました。韓国滞在の間、生徒たちはホームステイを体験し、韓国文化に直接触れるよい機会を得ました。

また、11月には韓国からソウル市内の高校生25名が来校し、明豊高校生とバスケットを通したスポーツ交流を行いました。今後ともさまざまな機会を通して国際交流を展開し、生徒の国際感覚を育んで行きたいと思います。

韓国･釜山での記念撮影

バスケット交流の様子

「おじいちゃん･おばあちゃん､また来るね」ー園児が「グラティほっとぱる」を訪問ー

附属幼稚園

昨年（2013年）12月６日、4歳児がデイサービス事業所JAべっぷ「グラティほっとぱる」を訪問し、施設のおじいさんやおばあさん達と交流を行いました。

施設の訪問は今年度２回目で、子ども達はおじいさん・おばあさんに「また、来たよ」と声をかけました。施設の方からも「待っていたよ」の声を聞き、互いに交流会を楽しみにしていた気持ちが伝わってきました。

子ども達は、「あまちゃんダンス」を踊ったり、クリスマスソングを歌ったりしました。また１対１になってクリスマスリース作りにも挑戦しました。リース作りでは、「ここにシールを貼ったらいいよ」と優しく声をかける子どもや、「僕がしてあげるよ」とお兄さんぶりをアピールする子どももいて、「ありがとう」、「かわいいね」と施設の方はとても喜んでくださいました。

園に帰る際に、自ら「おじいちゃん、また来るね」と手を振る子どもの姿に、高齢者の方の温かさに触れて人とかかわる喜びを十分に感じる会になったと、大変嬉しく思いました。

園児のグラティほっとぱる訪問の様子

留学生対象の研修旅行を実施ー竹田の歴史と文化を訪ねてー

同窓会

同窓会では、本学に在籍している留学生を対象に、地域の歴史や文化を学ぶ研修旅行を実施しています。

第４回目を迎える今回は、「竹田の歴史と文化を訪ねて」というテーマで2013年12月７日に実施しました。中国、台湾、韓国、タイの留学生33名と引率教職員３名で、先ずはさわやかな初冬の風を受けながら岡城に登りました。360度の大パノラマと堅固な高石垣に囲まれた岡城に、留学生は大変感激し、はしゃぎながらお互いに写真を撮り合っていました。確かに東アジアでは日本の城のような建築物はなく珍しかったのでしょう。昼食は日本料理（和食）で、食べ慣れない刺身コンニャクを不思議そうに頬張っていました。抹茶と和菓子「荒城の月」には皆にっこり、お店に飾られた武将の兜のレプリカをかぶり、また笑いが渦巻きました。その後、竹田市歴史資料館、滝廉太郎記念館に立ち寄り、竹田市いきいき老人福祉センターで竹田の伝統民芸品の「たまご人形」作りに挑戦しました。

今回は竹田地域の歴史と食文化、伝統文化にふれ、豊かな体験を通してさらに日本文化の理解が深まったのではないかと思います。

竹田市岡城での記念撮影

教職員コラム

Ｙ氏への手紙

国際言語・文化学科教授　**松本　篤**

拝啓
ご無沙汰いたしております。
昨今、貴兄にはお忙しい毎日と拝察いたします。
その後、お変わりなくお過ごしでしょうか。今年は秋の気配もないままに冬が来たようで戸惑っております。今日は風も強く一段と冷たい朝でした。この季節の日の出は美しく、マヌーを散歩に誘い、リードを外して一緒に眺めたものでしたが、彼が逝ってからは、気になるものの見に出ることをしていません。すべてがこの様です。怠惰の極み、漫然の日々であります。
その反動でしょうか、帰省の折、無性に故郷の景色を描きたくなりました。実は、私の故郷も新産都市計画に入ってからすっかり変わってしまいました。町の風景も、里山から海の端までも、思い出す昔は消えてゆきました。以来、描く対象として視ることもないままでしたが、突然でした。振り向くと山があった、そんな感じでした。霊峰と呼ばれる山で、そのまま遠景となります。昔に遊んだ大川を前景に、高校のある丘を中景に、風景画そのものとして目の前に現れました。エスキースを何枚か木炭で試しております。まだタブローに起こしてはおりませんが、モチーフとしての手応えを感じております。単に歳かと訝りつつ、すごいものを見つけたとハシャギました。
これまで、昔を懐かしむ事もなく今が一番と思って来ました。まして田舎の風景など年寄りの描くものと思っておりました。ただ、このところ、友人がちらほら帰郷し始めたことも遠因でしょうか、時々ではありますが故郷のあれこれを想うようになっておりました。そして今、その風景を描き始めております。やはり、自分がまったくその歳になっていたということです。愕然としながら、仕方なくではありますが、我が年齢を歓迎したいと思っております。この年齢、嫌いではありません。
描いて50年を過ぎます。残りは今一度、画家であるべく姿勢を確認する時間に当てようと思います。おもねりはないか、いやしくはないか、惰性に流れてはいないか、そして自分との闘いを緩めてはいないか。なにより、晩年の作品の一枚一枚が遺作である、との貴兄のご覚悟に共感いたします。急がないと、いわゆる晩年も過ぎて行きそうで、焦ります。
近況の、そして、今更の思いを報告させていただきます。
季節が変わりました。ご自愛下さい。

敬具

文教関係の仕事に携わって

大学事務局長　**長木　正治**

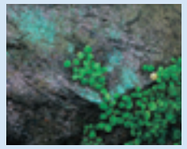
私はこれまで、半世紀近くにわたって文教関係の仕事に携わってきました。そのうち20数年間は文部省（現文部科学省）に勤務し、主として大臣官房会計課で国立学校等に対する会計業務上の指導・助言などに従事しました。仕事の内容は、予算の編成、会計関係業務の取扱基準や規定の制定・改廃、国立学校等の監査、訴訟等への対応、他省庁等との折衝、国会への対応など多岐にわたります。そのなかで印象に残っていることをいくつか挙げてみます。
各国の政府機関による物品等の調達は、「関税及び貿易に関する一般協定（GATT）」における内外無差別の原則の及ばない分野とされてきていましたが、1970年代に入って、世界貿易の一層の拡大を図る観点から、この分野においても自由化を検討すべきであるとの機運が高まり、ガットの場で本格的な検討が開始されました。私も政府職員の一人として米国政府代表団との協議に加わり、数日間にわたって英語同時通訳の厳しい交渉を体験しました。国立学校等は他省庁の機関に比べて物品調達の規模が大きいため、交渉の中心課題とされ、緊張する日々が続いたことが思い出されます。
また、国立学校教職員による学校用地の不法売買、機器購入をめぐる汚職事件、高級楽器の真贋事件などの不祥事件の処理対応にも従事し、国会での厳しい業務処理も経験しました。このほか貴重な経験として、大蔵省（現財務省）主計局に併任（出向）となり、国の支出に関する事務を電子情報処理組織（電子計算機等を電気通信回線で接続）を使用して処理する制度やシステムの開発などに携わりました。国の機関では現在もこれが活用されています。また、平成７年の阪神・淡路大震災のときには、学校の施設・設備の復興に係る予算編成作業に携わりました。
その後、平成16年までの10年間は、国立大学の職員として、教育研究組織の改廃などを通じたいわゆる大学改革に携わりました。主たるものとしては教員養成系大学の改革、大学院大学の整備、法科大学院の新設、国立大学の法人化などです。その改革した教育・研究組織が機能しつつ有為な人材を輩出していることはうれしいかぎりです。これらのことは、その時々において多くの方々と一緒に業務に従事したことによるものであり、鮮明な記憶として残っています。
別府大学に奉職して10年近くになりました。この間理事長、学長をはじめとする多くの皆様のご指導をいただき、学部の創設、管理運営組織の見直し整備などの業務に携わることができましたが、大学のために真に貢献することができたかどうか自問自答しています。別府大学の発展をご祈念しております。

新聞で紹介された別府大学・短大の活動

（平成 26 年度後半の主なもの）

新　聞　社	内　　容
大分合同9/12	出前授業「遺伝子組み換え実験」［林毅准教授］
大分合同9/13	「リユースマーケットin別府」実行委員長　［平山れい子国際交流会館管理人］
大分合同9/18	障害のある人の保護者を支援する「ケアカフェおおいた」［首藤健太 卒業生］
今日9/21	国際交流浴衣の夕べ　留学生に日本文化体験
今日9/22	文化講座「香り活用した世界の美女」［吉武利文客員教授］
今日9/26	別府大学で広瀬淡窓展　［附属博物館］
今日9/30	早かった別府の都市計画　［中山昭則教授］
読売10/10	県産シイタケのおせち作り教室　［立松洋子教授］
大分合同10/16	時空こえる漫画の底力　［クニ・トシロウ客員教授］
大分合同10/25	大分合同新聞文化賞　［金子進之助短大学長］
毎日10/26	国東の書家がボランティア・小学校で指導　［山下桃佳 卒業生］
大分合同10/30	生産者と学生力合わせサトイモ調理会　［短大食物栄養科］
今日11/2	今日の感動を忘れずに・明豊高看護科2年生が戴帽式
読売11/3	少年軟式野球明豊中V・全日本春期県大会
大分合同11/12	「育ドル娘」がカレンダー制作
毎日11/14	筆つれづれ「いまこそ」［荒金大琳教授］
今日11/15	秋期企画展・別府温泉の景観　［附属博物館］
今日11/26	別府大学史学科 50 周年記念講演「地方のハンディを利点に」［後藤宗俊名誉教授］
大分合同12/2	泉都食育広め隊　［育ドル娘］
今日12/4	戦後別府で出た52種の新聞より　「別府女専新聞」別府大前進の学生ら編集
毎日12/5	ラットを使った地獄蒸しの研究について　［仙波和代准教授］
今日12/5	別府大学生が授業の一環でNPOへインタビュー　［篠藤明徳教授］
今日12/6	韓国龍仁大学金総長に別府大学名誉博士号
大分合同12/16	大学でも剣道日本一目指す　［岩本貴光講師］
大分合同12/16	別府大が初V　九州大学剣道女子　［女子剣道部］
読売12/17	郷土の味　若者が担い手　［育ドル娘］
大分合同12/18	競技発展に向け意欲　［梶田政昭元教授］
今日12/18	減塩料理で最終審査へ　国立循環器病研究センター　［食物栄養学科3年生 宮原由美］
西日本12/20	分権改革は地方から　［篠藤明徳教授］
今日12/20	3年生の就職を支援　別府大で企業合同説明会
今日1/4	一球の大切さ学ぶ　明豊中学野球部が全国大会へ
今日1/11	「作り手の思いとともに舞い上がる」別府大学の第37回新春凧揚げ大会
大分合同1/12	別府大で男性のための料理教室　［西澤千恵教授］
今日1/14	第4回大分ユーモアまんが大賞　応募総数は261作
今日1/22、2/12	文化財セミナー「実相寺の鷹塚古墳に焦点」［文化財研究所］　他に大分合同
今日1/23	「善き人との出会い」　西村明前学長の最終講義
大分合同1/24、2/12	別府大「減塩から揚げ」だし・うまみ賞［食物栄養学科3年　辻夏姫、宮原由美］　他に今日
大分合同1/26	別府大学「大分ユーモアまんが大賞」　他に毎日、読売、西日本、朝日、今日
今日1/29	別府大で第42回国際セミナー「韓国など8校84人受講」　日本文化体験や学生との交流も
今日2/6	ボンジュール「ショドー」荒金教授、フランスで書道教室

表紙の挿絵



「生命の力」130.3×162㎝　キャンバス･油彩
李　英（国際言語･文化学科絵画コース4年）

作者コメント
葉っぱと岩は、全然違う素材感で生命の力を感じさせます。柔らかい葉っぱにも堅い岩に負けない力があふれています。その力強さを表現しました。

編集後記

今回、学園の活動や様子をより多面的に伝えるため、本誌に新しく「おめでとうございます」（学生・教職員の表彰）、「地域とともに歩む」（地域連携）、「教職員コラム」の３コーナーを設けました。学園の教育・研究における取組みとともに、学園に集う人々の姿を本誌から読み取っていただければ幸いです。　（友永）